# 京都 うろつきまわりんぐ

朱色は古代より魔除けの色とされ、寺社仏閣に多く用いられてきた。今回はそんな朱塗りの神社の代表格の１つ、全国４万の稲荷神社の総本宮である伏見稲荷大社を紹介したい。　（ぶっち）

柱やベンチなどはすべて朱。京阪伏見稲荷駅は朱色を基調としたデザインが印象的な駅だ。この駅で電車を降り、両脇に土産物屋が並ぶゆるやかな坂道を上って東へ。疎水の上にかかる朱塗りの橋を通って、ＪＲの踏切を渡ると裏参道（神幸道）の鳥居が見えてくる。毎月１日の月次（つきなみ）祭や祭礼のある日には、多くの参拝者でにぎわいを見せる裏参道。普段はひっそりと土産物屋・お食事処が立ち並んでいて、歴史を感じさせる趣がある。それらの店で土産物を買う以外にも、名物のいなり寿司やすずめの焼き鳥を楽しんだりすることもできるのでぜひ立ち寄ってみてはいかがだろうか。

▲裏参道入り口

石畳の道は鳥居の中を通って、表参道と合流する。そこに建っている楼門は日本でも最大の部類に入り、面と向かって眺めると実に壮観である。楼門の両脇には、狛犬ではなく２匹の狐が控えている。稲荷大神の眷属（けんぞく）とされる白狐の像だ。左側の狐は鍵を、右側の狐は玉を口にくわえ、左右で１組の阿吽になっている。ちなみに、お稲荷さんといえばこの狐を連想しがちだが、当の稲荷大神様は狐ではないので勘違いしないように。楼門をくぐり、外拝殿（げはいでん）を迂回してさらに階段を上ったところに内拝殿があり、ここで本殿を拝むことができる。

参拝だけならここまででも済んでしまうが、さらに奥には伏見稲荷に来たならば絶対見ていきたいものがある。それが“千本鳥居”。稲荷山全体の参道の至る所に見られる鳥居は、願いが「通る」祈願、または「通った」御礼のため鳥居を奉納する習慣が江戸時代から広がった結果だそうで、現在その総数は１万にのぼる。中でも、奥社奉拝所（通称奥の院）までの２列に分かれた部分が“千本鳥居”としてその名を全国に知られているのだ。

◀千本鳥居。基本的に左側通行のようだ。

▶鳥居１本１本に奉納者の名前が刻まれている。

鳥居のトンネルを抜けると、奥の院にたどりつく。ここから鳥居はさらに山の方へと続いており、そのまま稲荷山全体を回る“お山巡り”をする参拝者も多い。その全長は約４km、所要時間は２時間ほどだ。

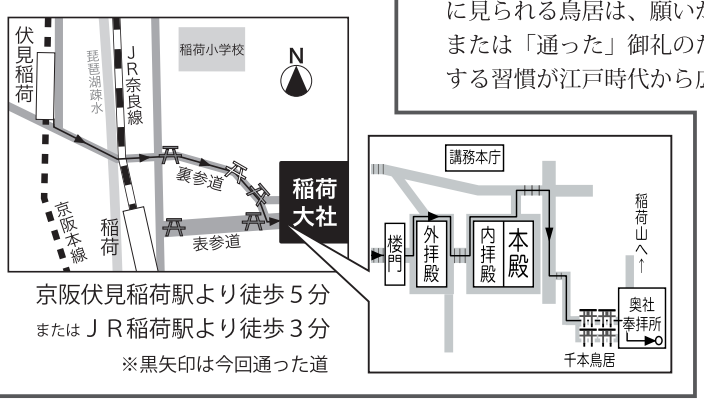
▲奥社奉拝所

もう年だからそんな若者のような体力はないという方は、Ｕターンして帰る前に、奥の院右手奥に行ってみるといい。そこには“おもかる石”（灯篭の前で願いを祈念して灯篭の上の石を持ち上げ、それが自分の予想より軽ければ願いは叶い、重ければ叶わないという試し石）がある。願い事があるなら、参拝の後にこの石に尋ねてみるのも一興である。

▲おもかる石

……と、ここまでご紹介してきたが、白黒の誌面ではあの綺麗な朱をお伝えできないのが心残りだ。時間があればぜひ自分の目で確かめに行ってみてほしい。年明けに250万の参拝者の中に混じって初詣に行くのも、人の少ない平日にのんびりとうろついてみるのもいい。それぞれ違った楽しみ方ができるだろう。

## 稲荷大社周辺・内部地図




京阪伏見稲荷駅より徒歩５分
またはＪＲ稲荷駅より徒歩３分
※黒矢印は今回通った道

**はみだしすてーじ**

僕の単位×友達の単位＝０
⇒……。友達だけ単位数が０なんですよね？

（工・１　ねばされ）
（知り合いに０単位の１回生がいる；編）